

6区6色の千葉市へ

千葉市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」、「総合戦略」素案への意見

東邦大学大学院 理学研究科 環境科学専攻 修士2年
栗飯原 希

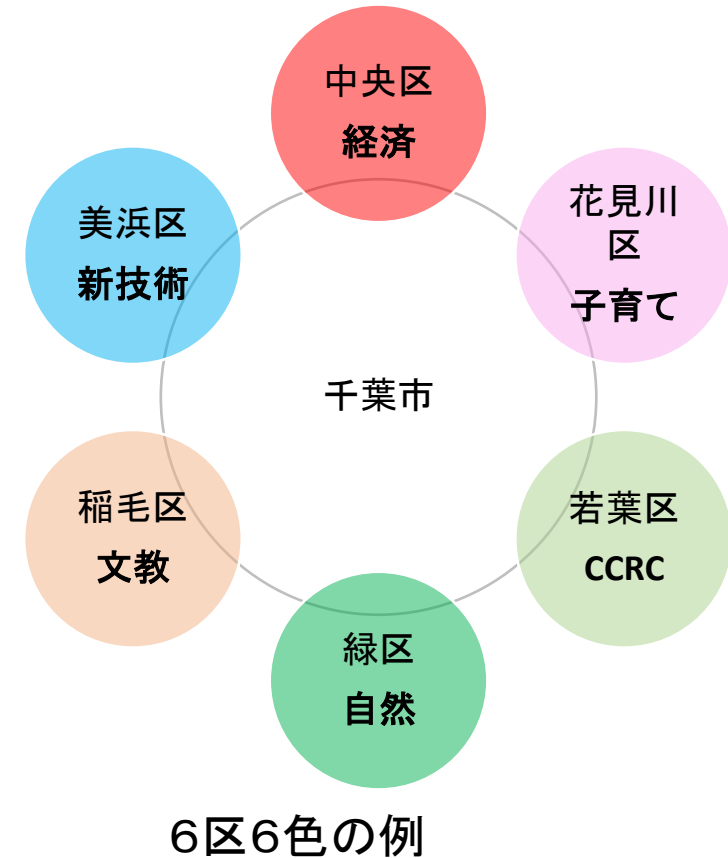
- 人口減少 → 財政縮小
 - 千葉市全体、どこも高齢者に優しく、子育てしやすい街づくりには無理がある
 - 各区で「押し出すところ」を持つ必要がある。
 - 土地利用のゾーニング、人口配置を議論、合意形成。
 = **6区6色の特色**を打ち出した長期戦略をつくる。

例) もしも若葉区をシニア特区にするとしたら

◎ 早くから市民活動に参加するアクティブシニアの多い街、

CCRC (Continuing Care Retirement Community)

× 姥捨て山のイメージ



- 「遊ぶ、学ぶ、働く、老後」各ライフステージで住みやすい、各場面で足を運びたくなる街をつくる。

周辺自治体との地域連携事業

<教育>

- 千葉市の子どもたちが南房総などへの**漁村・山村留学**の推進。
- 周辺自治体の子どもたちが千葉市のマリンスタジアムでの野球観戦や海辺のイベントを体験。千葉市で職場体験。

<観光>

- 千葉市と周辺市の**着地型観光**を結び、プランニング、PRする。



ツイート

いいね!

シェア

Google™ カスタム検索

南房総の魅力

スポットを探す

イベント情報

ライブラリー

ライブカメラ

宿泊・体験

トップ > ニュース一覧 > いいとこどりニュース一覧 >

いいとこどりニュース

2012年7月3日

千葉市から南房総市へ山村留学

千葉市立宮野木小学校の生徒160人が南房総市内の岩井、富浦地区の民宿23軒に分宿して、南房総の生活を体験します。千葉市が進める農山村留学推進事業で、子どもたちが、豊かな大自然の懷に抱かれながら、農業体験や林業体験などの体験活動を行い、その中で実施するホームステイでの生活体験で、家族のありがたさや友情と協力の大切さを実感するのが目的のものです。長野県で行われてきたが、千葉県内で行う初めてのケースです。



民宿の方々とご対面

宮野木小学校の生徒は、7月1日～4日の3泊4日の期間中、2泊を大房岬少年自然の家で過ごしていましたが、民宿の方々と対面の場面でも元気なあいさつと歌を披露。鎌田商工観光部長から「6年生の楽しい思い出とともに家族とまた来てください。」と歓迎のあいさつ。橋本校長先生からは「民宿の方々とどんな体験をするのか楽しみにしています。」と民宿の体験で新たな発見がされることを期待されていました。

各民宿では、民宿の仕事を体験するほか、宿によってはびわの種を使った杏仁豆腐づくりやびわジャムづくり、タコ漁や船に乗っての遊覧など南房総らしい生活体験が行われます。

https://www.mboso-etoko.jp/top/goodlife/dispatch_A.asp?id=12543&group=1

⑤地域経済を支える人材の育成

- ・「就活イベント」だけではない、千葉市内の**企業採用担当者、経営者と学生と**のマッチング。

(画像)

参考)

知るカフェ



千葉の元気な社会人と学生が、ホンネで語り、わかちあう場

わかちば

- ・市が大学への**研究、調査の協力の働きかけ**(環境分野、社会・経済分野)。

①妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援

- ・ 汲み取りにくい子育ての現場の声を、保育所などに赴き、ヒアリングをする。意見交換の場を作る。

②充実した教育・保育の提供

- ・ 家庭の経済環境によって塾に通える子、通えない子で学力や進路に差が出ない学習支援。
→放課後教室塾
- ・ 小学生、中学生、高校生の各段階で街づくりのワークショップを経験。→ 愛着に繋がる。

④若さにあふれた活気あるまち

- ・ 高校の生徒会、成人式の実行委員会、青年会議所などに参加する若いリーダーを育てる。
市内の人脈を結ぶ場の提供。
- ・ 高校生や大学生による政策コンペ。



習志野市

③アクティブシニアの参画推進

- ・シニアを育て、活躍の場を提供する。

パークマネジメントや子どもの学習支援、自然体験活動支援のできるシニアを育成する。

参考) 大阪府営泉佐野丘陵緑地 泉佐野市



http://www.studio-l.org/project/04_izumisano.html



<http://www.nikkeibp.co.jp/atcl/tk/15/433782/102600140/>



緑の都市賞は、緑豊かまなちづくりを目指し、緑を用いた環境改善や景観の向上、まちづくり、施設づくりに成果を上げている市民団体や企業、および個人的な施策で都市の緑の保全に成果を上げている公共団体を表彰するもので、今回が第35回となる。内閣総理大臣賞のほか、国土交通大臣賞、都市緑化機構会長賞、奨励賞の3賞にそれぞれ3グループが選出された。

なお、都市緑化機構は同日付で「緑の環境デザイン賞」と「屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」の受賞者も併せて発表している。

※「第35回 緑の都市賞」「第26回 緑の環境デザイン賞」「第14回 屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール」受賞者と概要一覧 (PDF)

①都市のコンパクト化と活力を生み出す地域空間の形成

- **空家や空き団地** → 「知の拠点」事業の拡大。
- **耕作放棄地、荒地** → 市民農園、有機野菜づくりの場にする。
- 多様な自然が強み = 自然を高付加価値化し、持続的・高収益な産業を育成し、子育て世代を呼び込む。
→ プレーパークや森の幼稚園の活用などを通して、**環境教育**を充実させ、子どもの生きる力や郷土愛を育む。
→ 公園にレストランやカフェの設置ができるよう、規制緩和、支援。

(画像)

③公共施設マネジメントの推進

- 将来、維持管理費を市が負担できず、**公民館や図書館の統合**が必要となる。
→ 早期段階からワークショップを行い、市民との合意形成を図る。
(使用料金の値上げ、施設統合、民間機能導入の検討)

参考) 習志野市 公共施設再編

①都市アイデンティティの確立

- マスコミに報道してもらえるように、情報を戦略的に流す。
→ 外部からの評価によって、市民に再評価される。
例)エアレース、障害者スポーツ
- 人との繋がりや思い出(家族で遊んだ公園、デートスポット等)の場所が必要。

(画像)

②市民全員参加のまちづくり

- 子どもの頃から街づくりのワークショップを経験
→ 長期計画を市民がつくる。

①「おもてなし」の開催準備

- ・「自分たちの街にオリンピックが来る！」という意識の醸成。

例) 一校一國運動

- ・ 外国人観光客 増加

→ 谷津田を利用した「都心で里山体験」

自動運転自動車、ドローンの先端技術体験。

②有形・無形の「レガシー」の未来への継承

- ・「障害者スポーツといえば千葉市」にする。

→小中学校の生徒が試合観戦、市内企業の観戦優待。

授業や市内のイベントで障害者スポーツの体験の推進。

(画像)